

神社・仏閣巡りは いかがですか

昨年引き続き神社・仏閣を紹介します。その歴史は古く、私たちの生活にも深くかわわっていますし、大きな木やお花などで有名なところもあり散策路として訪れることもよいかと思えます。

榛名神社 (富士見市勝瀬)

4月10日は榛名神社の例大祭、「はんな様」と言われて地域の方に親しまれています。保存会の方々が守り続けているお囃子・里神楽が奉納され、植木市や露店も出てとてもにぎやかです。ちょうど市制記念日が重なっていて、小・中学校がお休みになっていた時期には、子どもを自転車で乗せてよく行きました。しかし、今回は年を重ねているので、バスを利用しました。



ふじみ野駅から、市内循環バス市役所行きに乗り5分、護国寺バス停で下車。少し戻ると参道です。正面にこんもりとした森が目に入るので、そこを目指して歩きます。神社の創立は不明ですが、本社再建は1477年(室町中期)4月10日と棟札に明記されていて、御祭神は土・植物を司る神・埴山姫命と、食物を司る豊受姫命だそうです。創建にまつわる地元の言い伝えとして「お船山伝説」も語られています。

境内は広く、稲荷・鹿島神社など6つの神社の社も並んでいます。市指定のケヤキの木、銀杏の木が何本も立っています。近くには砂川堀が流れていて、勝瀬小学校からごみ焼却場まで堀に沿って桜並木があります。例大祭のころに、お花見や散歩がてら出かけてみてはいかがでしょうか。

(両角)



西雲山光明院「来迎寺」 (富士見市鶴馬)

「来迎寺」は、鶴瀬駅東口から徒歩10分の喧騒から少し離れたところに天台宗の寺院として、「鶴馬の七沢八寺」にも記されている寺院です。

「本尊は「阿弥陀如来三尊」を祀り、富士見の学校教育にも深くかわわり宝暦年間(1751年から1764年)には、晃順住職が寺子屋を開設し近在の子弟への教育を施し、後の「鶴瀬小学校」の前身となっています。

開山時期は不明で、鎌倉時代とも言われますが、江戸時代中期には存在しており、昭和16年以降に真海和尚により復興が施され現在に至っています。同寺には、天明4年(1784年)銘の「宝篋印塔」や享保8年(1723年)の延命地蔵が現在に引き継がれています。

現在残る八寺は、「来迎寺」「浄円寺」「瑠璃光寺」の三寺です。

また寺院の隣接地には、「来迎の泉」と呼ばれている湧き水があり、源泉は秩父連山の伏流水と言われています。

一度喧騒から離れた同寺院を訪れて見れば、いかがでしょうか。

(堀口)



多福寺 (三芳町上富)

10月の秋晴れの夏日!に多福寺を訪ねた。ライフバスが鶴瀬駅西口とふじみ野駅間を循環している。時刻表を駅で調べてから行くといい。帰りもバス停の時間を確認する必要がある(空白の時間帯が多くある)。私はバスを往復利用した。鶴瀬駅西口から多福寺山門入り口まで所要時間は約15分。自転車も良いが走れるレーンが無いのが難だ。

山門入り口から西側は雑木林でうっそうとしていて、40mくらい歩くと総門に到着。袖堀付きで、金紋がある黒い門は立派で威圧感がある。林に囲まれた様子は映画のワンシーンのよう。門の前の鐵扉を触ってみたら開かない。見回すと右側に道があり、手入れされた林の中の道を行くと見たかった鐘撞堂が現れた。ぼん鐘は県指定文化財だ。夕刻に川越街道から届く鐘の音が、この鐘の音なのか知らなかったが誰もいない。見学者にも会わなかった。多福寺の伽藍配置は総門、山門、本堂が一直線に並んでいるが、木が多く奥深さを感じる。

江戸時代に始まる三富新田開拓は、井戸水も出ず大変な苦労の上に、開拓農民は出身地が異なる仲も悪かったようだ。開拓の命を出した藩主柳沢吉保は、農村とのまとまりと連帯感情を作る必要があり、三村の菩提寺を一つにし、1696年臨済宗三富山多福寺を建立したと、三芳町観光情報ページにある。多聞院にも近く、良い季節を選び、誰かと一緒に歩くのは良いと思う。



薬師堂 (富士見市上沢)

鶴瀬駅東口から線路沿いを上沢に向け20分くらい歩くと、右手の高台に薬師堂があります。薬師堂自体はさほど大きくはないのですが、境内に「上沢の百観音」と言われる百体の観音像が並んでいます。

日本百観音とは、西国三十三ヶ寺、坂東三十三ヶ寺、秩父三十三ヶ寺に秩父札所水潜寺を加え百寺とした日本を代表する観音巡礼です。上沢薬師堂は、一度に百ヶ寺をお参りができる、数少ない場所でもあります。この観音様は、鶴馬村上沢の組頭の大曾根家の祖先が親子三代で全て巡礼し、その徳を多くの人に分け与えるために奉納したとされています。

秩父札所巡りでは、全部回ると、水潜寺の近くの温泉「満願の湯」で満願を祝い、疲れを癒すことが定石となっています。



お参りの後、歩いて10分のところに、関口不動堂があり、その前に「天狗の立像」が八つ手の葉のうちわをもって立っています。ちょっと足を延ばし立寄るのも良いかと思えます。

(中田)



柳沢吉保は、農村とのまとまりと連帯感情を作る必要があり、三村の菩提寺を一つにし、1696年臨済宗三富山多福寺を建立したと、三芳町観光情報ページにある。多聞院にも近く、良い季節を選び、誰かと一緒に歩くのは良いと思う。

(熊井)